



とし 年をとると「しらが」になるのはなぜ

かみの毛の色を決めているのは

かみの毛の中には、メラニンという色素（色のつぶ）が入っています。

かみの毛の色を決めるのは、かみの毛の中のメラニン色素と、空気の量です。

黒いかみの毛には、このメラニン色素がたくさん入っています。メラニン色素が少なくなるにつれて、黒からかっ色、くり毛、赤毛、金髪になっていきます。

とし 年をとるとしらがになるのは

かみの毛は、皮膚の下にある毛根の毛乳頭でつくられます。年をとると、毛根の毛乳頭が、メラニンをつくらなくなります。しかし、このメラニン色素が、どんなに少なくなっても、かみの毛はうすいとう明に見えるだけで、決してしらがにはなりません。

かみの毛の中には、細胞やたんぱく質がたくさんつまっています。この細胞やたんぱく質は、若い人のかみの毛の中には、たくさん入っていますが、年をとるにつれて、かみの毛の中心部分が少しずつぬけ落ちていき、毛の中心部分が、空っぽになっていきます。そして、そこに空気が入ります。しらがは、メラニン色素がなくなっていき、かみの毛の中心部分の細ぼうや、たんぱく質がなくなって空どうがができ、そこに、空気が入ることによってできるのです。また、しらががきれいに光って見えるのは、毛の中に入っている空気が、光を反射するからです。

しらがになるのは、かみの毛がいちばん早く、その次に鼻毛、そして、まゆ毛、まつ毛の順番で、しらがになっていくといわれています。（監修・保志 宏）

